

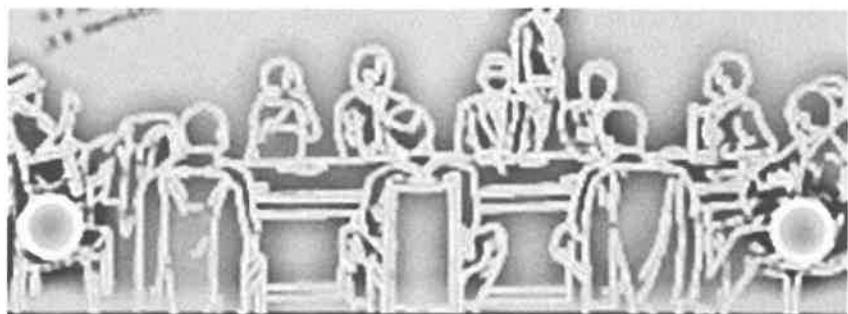
すき♥スキ♥大好き

No.61

○東京藝術座



高学年例会 9月18日（月・祝）
佐賀市文化会館中ホール 15:00 開演



低学年・高学年合同例会

9月 26日（火）19:00開演
メリカつきまちホール



ながさき子ども劇場 広報部

〒850-0057 長崎市大黒町4-26 北村第一ビル303号
Tel: 095-825-0533 Fax: 095-825-6151
E-mail: sukisuki@bird.ocn.ne.jp
<http://www.na-kogeki.sakuraweb.com/>

発行 2023年9月26日

1. 巻頭企画 おしえて子どもせんせい
 2. 例会 とんからり
 3. 祭典報告
 4. 県連総会、大沢愛さん講演
 5. 高学年キャンプ
 6. 親子キャンプ
 7. 乳幼児部「クッキー」
 8. 乳幼児部 研修ワーク、九州での発表
 9. 高学年部「12人の怒れる男たち」取組み
 10. 絵本のとびら
- 編集後記

おしえて子どもせんせい

松井しゅんとくん(4才)のこたえ

Q. 空気ってなに？

A. 空気は吸うためにある

風が吹いてる時の空気は美味しい！

Q. 星はなんであるの？

A. お願い事するため！流れ星は
さらに強い願い事に効くらしい

もつと

おしえて子どもせんせい

Q. 風はどこからくるの？

Q. ながれ星が、おちたらどうなるかな？

例会の会場ロビーに、解答箱をおいてます。

子どもせんせいのユニーク解答待ってます。

舞台鑑賞

★9月例会★

9月 低学年例会・高学年選択例会

とんからい

劇団風の子

舞台劇

2023年9月26日(火) 19時開演(20分前開場) メルカつきまちホール

未来をつくるのは子ども、子どもの中に未来がある

劇団風の子が八王子市美山町に拠点を構えて30年がたちました。日本全国の子どもたちに芝居を届ける旅公演の中で、各地方のあそびや文化、芸能に触れる機会が多数ありました。脈々と流れる人々の思いの深さ、そこから表現される伝統文化、芸能の数々。それはその土地に根付く人々の思いをこめた豊さを感じさせてくれます。

そして私たちも、ここ八王子周辺に伝わる伝承あそびやわらべ唄、民話、文化、芸能を今一度見つめ直し、掘り下げ、長い間受け継がれてきた素敵な素材をいかしながら、子どもたちと共に新たな劇空間を創りあげていきたいなと思うようになりました。

本来子どもがもっている“あそび心”“イメージ力”を信じ、伝承文化を見直すと同時に、現在と未来を生きる我々と子どもたちの手でこの作品を通して、新たな「あそび」や「文化」を再創造していけたらと思っています。

作・構成演出 中島 研

もの売り遊び



とうがらし売り



あめ売り



ざる売り



まゆ玉売り

上演時間
・
一時間



■オープニング
■おもな内容
■もの売り遊び
■山車(だし)遊び

■まゆ玉と龍神
■でいだらぼっち
■お芝居

とうがらし売り
まゆ玉売り
あめ売り
ざる売り

まゆ玉と龍神

原案/金田 拓

兄妹が二人きりで暮らす村では雨が降らずに困っていた。ある日、クモのいと助から「子どもの元気な声があれば雨が降る」と教えられ、草太とまゆは旅に出かけます。呼ばわり山の泣き虫さんと、笛吹山のおこりんぼうに会って、二人は龍神淵に辿り着き、雨乞いの歌を歌います。



でいだらぼっち

原案/金田 拓

山が大好きな大男・でいだらぼっちは渡り鳥から「北の方にでっかくてきれいな山がある」と聞き、たまらず探しに出かけました。

きれいな山(富士山)をみつけたでいだらぼっちは、自分のそばにおきたいと、おんぶして連れ帰ろうと…



★次回例会★

<乳幼児> (音楽)
“○△□ちゃん”
(まるさんかくしかくちゃん)



<低学年・高学年>
“パッティパタバ”
(音楽)

2023・12/2(土)
11:00(乳幼児)・18:30(低高)
ブリックホール国際会議場

第28回長崎県子ども舞台芸術祭典



今年は県南地区 9ステージが開催されました。

そのうち子ども劇場の会員が中心となって取り組んだ公演から、主催した実行委員会の声を集めました。



★ざんさんのおはなし劇場（ざんぱら企画）

7/21 三重たのしまんば会 174名 / 長与子ども劇場実行委員会 87名

6年ぶりの祭典公演「ざんさんのおはなし劇場」。小学生にぴったりの作品でした。ざんさんが話し始めたとたん子どもたちが引き込まれていくのが分かりました。参加型の場面あり、じっくり聞かせるところあり、子どもたちの反応をうまくひろい上げつなげていくのは流石です。三重公演では地元の学童の若い先生が搬入から手伝ってくれました。新たに参加した地元の学童もありました。ブロックで取り組んでいる長与公演では、子どもたちにも「夏には祭典をがんばる！」が浸透していて、和気あいあいと会場づくりやお当番の仕事を張り切る姿に、続けていくことが大切だと本当に感じています。



★ぼくピンチなんです！（くわえパペット・ステージ&ひつじのカンパニー）

7/24 スマイル時実行委員会 167名

ピンチにまつわる三本立てのお話は、それぞれとても分かりやすく面白いので、学童や保育園の子どもたちも声を出しながら楽しんでいました。大人も「こういうのあるよね！」と笑える場面多く、細やかな人形使いやスピード感のある場面、「ピンチバスターZ」とのやり取りなど、観る人の心を掴みどんどん引き込んで会場は大いに盛り上りました。「今年も祭典はあるんですか？」と学童側からのお問い合わせもあり、夏休みの祭典を心待ちにしてくださっているのを感じました。来年はまた上演場所を増やすなど考えていきたいと実行委員会で話しました。



★モシモランド（風の子九州）7/31 東長崎実行委員会 214名

子ども達の反応がすごく良くて、みんなで観ている！！という一体感があって楽しいステージでした。「まくらくん」の話がかわいくもあり、面白く、また心にじーんときました。家に帰ってからも枕を顔にかぶせて「まくらくん」と言って真似して遊んでいる我が子がなんともほほえました。



子がなんともほほえました。子どもの笑うつぼを掴んでいて、子ども達が大笑いしているのがとても印象的でした。もしもの世界がとても面白くて、「もしもこんな世界があったらー？」と未だに家で娘と遊んでいます。ぜひ来年も東長崎の地域に作品を呼びたいです！

県連総会

2023.6.10(土) 諫早市立諫早図書館 <出席：正会員 15/19、書面 3、委任 1 >

NPO法人長崎県子ども劇場連絡会（県連）の第22年度通常総会が6月10日に開かれ、ながさき子ども劇場からも8名が参加しました。団体正会員である4つの子ども劇場のうち壱岐子ども劇場はオンライン参加、会場に15名が集まりました。前年度の事業報告ならびに決算報告、役員選出の後、事業計画と予算もすべて承認され、新年度がスタートしました。



県連では、連絡会事業として県内各劇場の交流と学習、例会企画・調整・実施における協同など、劇場代表者会を開きながら地域の子ども劇場が元気に活動できるよう知恵を寄せ合っています。乳幼児・低学年・高学年別の活動部会では、年齢発達に応じた鑑賞活動と子どもの主体的活動を通しての学びと交流の機会をつくっています。県内高校生青年交流会もその一つです。

また子ども舞台事業では、子ども・文化・地域のネットワークづくりを目指し、今年28回目となる長崎県子ども舞台芸術祭典事業をはじめ、舞台コーディネイト事業などに取り組んでいます。3月には祭典事業の主催で北島尚志講演会が開催されましたが、今回この総会の午前中にも、ベイビーシアターの大沢愛さんの講演会が企画されました。



人は輪の中で育つ ～ベイビーシアターの広がりと共に～ 大沢 愛さん 講演会

参加 38名



通常総会と同日の企画で、大沢愛さんの講演会が開かれ、ながさき子ども劇場からは16名が参加しました。お母さまが事務局として関わっていた子ども劇場を自身の原点とし、その後、「表現教育」「ドラマ教育」を学び、「わらべうた」と出会い、子育てをしながらはじめての作品づくり…。悩んだ時に先輩からもらった「なにもあせる必要はない。子どもからたくさんのこと学べるはず。今しかできない子どもとの時間を楽しんで」という言葉。出会っていく子どもたちの持つすごい力、可能性、希望と出会う日々。「子どもは自ら育つ力を持っている」そのことにリスペクトし関わりながら、いかにその育ちを見守り待つことができるか。舞台芸術は、その楽しさの優位性の中で、人がそこにいるという関係・環境・継続的な見守りをもつことができる。ベイビーに、平和であることと、基本的な信頼関係を。子が生まれ、そこから水の波紋のようにゆるやかに輪が広がっていく、その中で共に育ち合っていこう！と、子どもと関わる上で大切なことを伝えてくださいました。



お話を後の、「幼い子どもと対等な関係を結ぶというのは、どういうことか。どうしたらいいか。」との会場からの質問に、「自分の感覚としては、チューニングを合わせる感じ。その子が何を感じているかを、それをいかに感じ取れるか。」と答えられていました。

「自分(のまま)で大丈夫」と、自分自身が解放されないと、人のことはなかなか入ってこないし考えられない。大人がほぐれると、そこにいる子どももほぐれる、「かぜのうた」はそんな作品。ぜひ、みなさんにもベイビーシアターに会ってほしいし、一緒に輪を広げていってほしい、とメッセージをいただきました。

(県連ニュースレター「すくらんぶる」より)



高学年・夏キャンプ @黒木民宿キャンプ場

今年も、8月18日(金)から19日(土)の一泊二日で高学年キャンプを行いました！
今回は、最近使用していなかった黒木民宿キャンプ場にて、小学生4名、中学生4名、
高校生4名、青年2名の計14名(+大人2名)でキャンプを実施！

青年の参加人数が少ない中、なんと高校生が実行委員長に立候補してくれ、いつもと違った雰囲気で実行委員会を実施！タモジ～(*'-'*)人

さあ、今回のキャンプですが、例年と比べて遅い時期+金曜日から開始というのもあり、普段参加してくれている中高生の参加が気持ち少なめではありました。小5の初参加者が3名も参加してくれて青年大歓喜(≧▽≦)

当日はJRと乗り合いタクシーを乗り継ぎまずは川の近くで昼食、川遊びから開始！水が冷たくて上がったあとには寒かったです(△△)*

その後は川からキャンプ場まで歩いて移動し、キャンプ場に着いたら早速夕食作りの準備へ、みんなすごく動きが早く予定より1時間程早く片付けまで終わってましたねスゴイ(・△・ノ)☆パチパチ

その後はENDon2の夜企画、就寝という名の夜更かし、朝食・昼食作り、あんさん企画、さわがにキャンプ場へ移動しての実行委員会メイン企画の脱出ゲームと今年も盛り沢山！みんな楽しんでくれたかな？楽しんでくれたよね！今年の高学年キャンプは、高校生の協力のおかげで大きな怪我もなく最後までやりきる事が出来ました！

高校生のみんな頼もしかったぜ！来年の高学年キャンプでもよろしくな！

今年は参加出来なかったみんなも、来年一緒に楽しもう！待ってるぜ山(山)ガオオオオ <青年 増田洸>



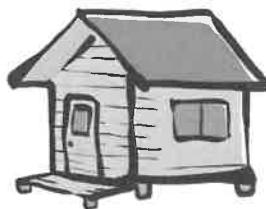
実長なのに自己紹介を忘れたりキャンプで一人だけ怪我したり、名ばかりの実長ですいませんでした！青年のサポートもあって楽しいキャンプになりました。ありがとうございました！来年はどんな楽しいキャンプになるのか楽しみです。来年の実長に期待したいです。高校生が実長をしたらいい経験になると思います。高校生皆さん、実長への立候補お待ちしてま～す！

<実行委員長 立川侑樹(高2)>



夏の親子キャンプ 2023

8/19(土)～20(日) 黒木さわがにキャンプ場



参加人数：大人 19 名、中高生 4 名、小学生 12 名、乳幼児 10 名 計 45 名

※16世帯(日帰り 3世帯)参加

今年は猛暑だったこともあり、さわがにキャンプ場の川遊びがとても気持ちよく、またコロナでの制限を気にすることなく、のびのびやりたいことをやれた2日間でした。

高学年キャンプから続いてくれた子どもたちも加わり、肝試しやキャンプファイヤーはより盛り上りました。

夜の大人の会では、深夜まで話しが尽きることなく、会員同士よい交流の場となりました。



乳幼児部 クッキー

クッキーひろば

毎月1回 日曜日 10:30~14:00
上長崎地区ふれあいセンター
※日程など変わる場合もあります。
事務局にご確認ください。

*5/7(日) クッキーうんどうかい

あいにくの雨模様でしたが、みんな元気に集合!! まずはジャンボリーミッキーの歌にあわせて準備体操から。みんなの元気な声に曲がかき消されるというハプニングもあり賑やかにスタート。お手製のギラギラじゅうたんで一人ずつユラユラ～題して「魔法のじゅうたんに乗って」なかなかの揺れ心地に小さい子はご機嫌♡ 5月例会「こまのたけちゃん」に絡めて逆さまにした傘をこまに見立て、



グルグル回しながらの玉入れ！玉はみんなが丸めた新聞紙ボール。

パパやママに抱っこされてポイっと投げ入れます。4月ひろばで作ったこいのぼりでトンネルごっこ。行ったり来たりで飽きません。最後はおやつの入ったこいのぼりのひも引っ張り闘いでget！

この日はメンバーの紹介で体験参加が2組あり、とても賑やかなひろばとなりました。



*6/18(日) 乳幼児例会「かぜのうた」

～表現教育研究所 大沢 愛さん～ (県美術館ホール)

5年ぶりのながさき公演。この日は16組の親子の参加があり、1部のわらべうたワークでは、わらべうたにあわせておひざに乗ったり、抱っこされながら触れ合っているうちに徐々に笑顔が見られるようになり、ゆったりとした気持ちで2部の舞台鑑賞へと移動。



大沢さんの透き通るような優しい歌声、木製の楽器で奏てる虫たちの声、柔らかなホタルの光や満月に映し出されるうさぎの影など四季の移り変わりの情景を静かな音や光と影で表現しており何度も心に響きます。まだ小さいからわからないのではと不安なお母さんの想像以上に、子どもの観る力があることへの驚きであったり、お母さん自身が日々の忙しさの中で持てていなかったゆったりとした時間と感動を得ることができたようでした。



*8/6(日) 水遊び in 水辺の森公園



この日も暑かった！久々の噴水ひろばでの水あそび♪♪ 夏休みできょうだい、いとこさん、パパたちの参加もありました。しばらくは、自前のおもちゃで水あそび、噴水の量にびっくりしながらもヒンヤリ感触は気持ちいい♪お昼は木陰でスタッフ準備のソーメンタイム(^^) お腹いっぱいにならたら、恒例のスイカ割り。人生初のスイカ割りはママと一緒に。もちろん目隠しなしで、ちょっとひとたたき。そのあとはみんなでたらふく夏を味わいました。



県連乳幼児部主催・大人研修ワーク

「子育ての知恵袋～わらべうたを学ぼう～」

6/17(土) アルカス SASEBO・リハーサル室にて

講師：大沢 愛さん（表現教育研究所）



県内の子ども劇場が交流し学び合っている乳幼児部会の主催で、昔からそれぞれの地域でも受け継がれている“わらべうた”がなぜ乳幼児に良いのかを学ぼうと、表現教育家の大沢愛さんをお迎えして“わらべうた”的ワークショップが開催され、ながさき子ども劇場からも乳幼児部スタッフ長の中尾さんと、4才と1才の子を持つクッキー長の松井さんが参加しました。以下感想です。



○今日のワークの中でだれに手渡しますか？という問い合わせに、もちろん我が子になんですが、わらべうたをうたおう！と思ってもなかなかそんなにレパートリーがなく、もともと知っているわらべうた、これまで習ったわらべうたをうたうのですが（うたおう！と思うのですが）おばえて行くとか、おぼえよう！とかではなく、子どものころからうたつたったうた、あそんだうたが、子どもが大人になった時にその子の子どもにまたうたって…とつづいていくんだろうなと思いました。
1つでも2つでもいいからうたいつづけたいです。（松井）

発表する

九州沖縄地方子ども劇場連絡会・2024年度例会企画のための交流会
継続テーマ「舞台芸術の力で子どもをとりまく状況を打ち破る」

7/4(火) 福岡市立博多市民センター

【参加】子ども劇場 51団体 174名／創造団体 85団体 74名／計 248名



2024年度の例会企画のための交流会は、九州各地の子ども劇場、作品提出している創造団体が一堂に会し、7/4～5(1日目)全体会Ⅰ、グループ交流、団体紹介・作品説明①②、(2日目)団体紹介・作品説明③、全体会Ⅱ、の日程で開催されました。

今回、全体会Ⅰの「子どもの成長に応じた例会活動」の乳幼児活動実践報告で、ながさき子ども劇場乳幼児部が「乳幼児期における例会活動～人とのつながりを大切にして～」のタイトルで発表してきました。乳幼児を持つお母さん自身が発表予定でしたが、子どもの体調不良などで参加を断念。スタッフ長の中尾さんが代読しました。

毎月1回開催している「クッキーひろば」、活動について話し合う乳幼児部会（乳幼児の親である3人の委員とサポートスタッフ）など、「楽しんで関わる大人の存在が子ども達の『安心』にもつながっている」「会員という継続した関係、信頼関係が構築された輪の中で作品を鑑賞する良さを実感している」「クッキーひろばなどの一回一回の活動の中で人の関わりを積み重ね、例会を鑑賞するまでの過程も大事にすることによって、親も子も安心し、作品に集中できること、また、鑑賞後の深め合いの時間がとることができるという劇場の素晴らしいところに気付くことができた」「今後も人とのつながりを大切にしながら子どもに寄り添い、乳幼児部の活動を楽しんでいきたい」と報告しました。活発に活動し、スタッフにも支えられながら当事者同士がつながっている様子に、他県の子ども劇場の人からも共感の声が上がっていました。

『12人の怒れる男たち』九州合同共通体験

～民主主義とは？～

日付 8月27日（日）
 時間 9：00～16：30
 場所 水俣病センター相思社
 水俣市立水俣病資料館
 熊本県環境センター
 水俣病情報センター
 鹿児島県子ども劇場協議会青年実行委員会主催



1958年 月浦生まれ

父は水俣病患者連盟委員長だった川本輝夫（故人）

2004年 作業療法士・言語聴覚士として介護施設を設立

2008年 水俣病資料館「語り部」になる

現在、水俣市出月在住。水俣病被害者手帳保持。

川本 愛一郎 さん

共通体験をして、学び、語り合おう！と鹿児島の青年実行委員会の企画で開催されました。

当日は鹿児島バス組とその他という形で午前中に水俣病センター相思社と水俣市立水俣病資料館を分かれて見学し、昼食後、水俣病情報センターに全員が集まり、参加者紹介、これまでの例会活動の取り組みを発表しました。その後、川本愛一郎さんのお話を聞き、それから民主主義とは何かを考えるグループトーク、全体でシェアして終了しました。考えさせられる、学びの多い二日間でした。

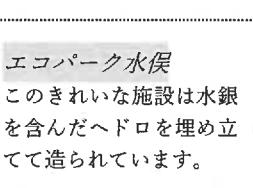
「民主主義とは？」

～グループトークの発表より抜粋～

*話し合いをするために、相手をテーブルにつかせること

*みんなが自分事ととらえて平等に考える機会をつくり、みんなが納得する答えを出す場

*多数決でも少数派の意見を聞いて、批判するだけでなく問題点に対する解決策も出し、双方が納得できる話し合いをすること



青年、高校生、大人の有志で前日から泊りで交流もしました。長崎からも青年2名、高校生5名、大人6名が参加。大分、鹿児島からの参加と合わせて、青年高校生17名、大人11名が、それぞれ別の宿泊所に分かれ、各劇場のことやその他もうもの話で盛り上りました。同じ劇場だけど、それぞれやる事や視点が違って刺激を受け楽しかったようです。このような機会を大切に九州全体での大きな絆が出来、若い世代が劇場の活動を盛り上げていってくれることにつながってほしいです。



ひろせさんの 絵本のとびら

みなさんにお会いしてほしい絵本、知って
ほしい絵本の話を紹介していただきます**

先日、浅草演芸場に行って思いっきり笑ってきました。落語を何本も聞いてもう笑いっぱなし。

落語を間近で、息遣いまで聞こえるような場所で聞くことができて大満足でした。

言葉の力ってすごいですね。一話一話、落語のお話の中に入りて楽しむことができました。

そこで今回は読むと笑顔になれる絵本を紹介しましょう。秋の夜長、絵本を読んで大いに笑ってください。

◆ 落語絵本15『みょうがやど』 川端 誠 作 クレヨンハウス



「みょうがを食べ過ぎると物忘れをする」なんていう言い伝えを真に受けた宿屋の夫婦。みょうが料理をたらふく食べさせて客に忘れ物をさせよう、それをねこばばしようと考えます。宿の名前も「みょうが屋」と改めてお客様を待っていると、来ました来ました。早速みょうが料理をどっさり出してこれでもかと食べさせます。よくこんなに考えたというくらいのみょうが料理の数々、思わず食べてみたくなります。

その上、お風呂にまでみょうがが…。ここまですれば確実に何か金目のものを忘れていくだろうと期待して、翌朝送り出します。ところが客が忘れたのは…?

川端誠さんの落語絵本はどれもおもしろいのでぜひ読んでみてください。

◆ 『うろおぼえ一家のおかいもの』 出口かずみ 作 理論社

これはまたみごとに忘れっぽいアヒルの一家のお話です。なにせ「うろおぼえ」なのに買い物に行くのですから大変です。「なにを買うんだったっけ?」ぼんやり覚えている単語をヒントに買い物をしていきますが、どれもピンとこない。しかし?おもい?しまる?つめたい?ひかる?あれこれ買って持って帰ってみると、買い物を頼んだおかあさん自身が何を頼んだのかを忘れているのですから話になりません。それでも買ってきていたアイスをのんびり食べているうろおぼえ一家。最後まで読むとよく何を買に行ったのかがわかります(読者には)。

初めて読んだ時に、肩の力が抜けて細かいことにくよくよしているのがバカバカしくなりました。これだけゆったりした気持ちで生きていけたらしあわせだらうなあ…。

うらやましくなるようなうろおぼえ一家なのでした。



◆ 『寿限無』声にだすことばえほん 斎藤 孝文 工藤ノリコ 絵 ほるぶ出版

ご存知、寿限無が絵本になりました。工藤ノリコさんのとぼけた絵が最高です。声にだすことばえほんシリーズの一冊なので、ぜひ声に出して読んでください。気持ちいいですよ~。それにしてもよくこれだけめでたいものを並べ立てたなあと感心します。

川端誠さんの落語絵本のシリーズにも『じゅげむ』が入っています。読み比べてみるのもおもしろいですね。



<編集後記>

暑い暑いと毎日つぶやきながら過ごした毎日。最近はようやく朝夕涼しさを感じます。

今回は「12人の怒れる男たち」の鑑賞で佐賀までバスツアーもあり、遠足気分でちょっとウキウキ。

広報部もひさびさの集まりでおしゃべりに花が咲きます。そして「どんからり」の例会で一回り成長した子どもたちと会えるのが楽しみです。



ながさき子ども劇場